

## これだけは押さえておきたいこどもの予防接種と感染症対策

## これだけは押さえておきたいこどもの任意接種と感染症対策

中野 貴司

川崎医科大学 小児科学

予防接種は、予防接種法で定められた公的な接種の「定期接種」と、それ以外の「任意接種」に分類できる。任意接種という呼称は、接種したい希望者のみが接種すると受け取られがちであるが、健康を守るための大切な手段であるワクチンであることに変わりはない。

わが国の医療制度では、治療は国民皆保険でカバーされるが、予防のためのワクチンは定期接種でないと全額個人負担すなわち高額な費用を支払う必要がある。一部の任意接種ワクチンについて公費助成を適用している自治体もあるが、全国的に決して多くはない。また、任意接種の場合、自治体からの情報提供が十分になされないため、ワクチンの存在すら知らない者も居る。経済格差やHealth Literacyの差異によって予防接種へのアクセスに差が生じることは好ましくなく、有効で安全な予防手段であれば広く普及させることが望ましい。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が私たちに及ぼした影響は計り知れないほど多彩だが、感染症流行状況も大きく変化した。パンデミック中に感染予防策として励行された手指衛生やマスク着用、咳エチケットの効果はもちろんのこと、行動や移動の制限はヒトとヒトの接触や病原体持ち込みの機会を減らし、大多数の感染症が激減した。

しかし一方で、ポストコロナの制限緩和により、それまで抑止されていた感染症流行が再興し、その規模はしばしばコロナ以前を大きく上回る。RSウイルス、エンテロウイルス、溶連菌、肺炎マイコプラズマなどが大きな流行をきたし、患者の多くは過去に罹患歴の少ない小児である。2024年末のインフルエンザA型ウイルスの急峻な流行拡大も記憶に新しい。また、COVID-19パンデミックにより遮断されていた海外との交流が復活し、インバウンドの増加や日本からの海外渡航はコロナ以前を上回る勢いである。このような情勢の中、輸入感染症の脅威から小児を守ることもワクチンの役割である。

本教育講演では、小児の任意接種ワクチンにフォーカスし、感染症対策について概説する。インフルエンザ、COVID-19、RSウイルス感染症などの呼吸器ウイルスワクチン、定期接種化が海外諸国に大きく遅れているおたふくかぜワクチンについては特に詳しく触れたい。また、最近承認されたトラベラーズワクチンでもあるダニ媒介脳炎ワクチンや腸チフスワクチンについても話題提供する。